

甲府市立西中学校

二年

帯金

那奈美

おひかね

ななみ

今年も台風がやって来る季節になりました。つい最近、私が住んでいる山梨県の上野原市でも、台風によって大きな被害を受けました。雨量三百二十ミリという大雨で、高さ・そして幅ともに、およそ十メートルにわたって土砂崩れが起きたと、ニュースで放送されていた。また、家の下の土がえぐられて、まるで中に

に浮いているような映像を見て私は、いつ崩れてもおかしくないし、二度とこの家には住めないだろうなと怖く思いました。この上野原市の土砂崩れのニュースを見て私は、今年の八月に起きた広島市の土砂災害のことを思い出しました。広島市の土砂災害では、最多雨量が安佐北区上原で二百八十七ミリ、一時間あたりの最多時間雨量が安佐北区三八東では百二十一ミリという豪雨で、死者七十五人、負傷四十四人という、たくさんの人た

ちが被害を受けました。この広島犠牲者の数は、土砂災害の犠牲者としては平成に入ってから最も多くなつたようです。人だけでなく、建物にも大きな被害がありました。全壊が百三十三棟、半壊が百二十二棟、他にも一部損壊や床上浸水・床下浸水などの被害を、たくさんの方が受けました。被害を受けた人たちは一瞬にして、大切な人や住むところを失い、とてもつらく悲しい思いを一年経つ今でもしています。

日本は、土砂災害が多いと言われています。なぜなら、傾斜が急な山が多く、台風や大雨、地震などが多いため、その地形的・気象的な条件によつて、土砂災害が発生しやすい環境にあるからです。土砂災害には、がけ崩れ・土石流・地すべりなどがあります。がけ崩れとは、集中豪雨や地震などにより、地盤が緩み、抵抗力の低下や浮石の抜け出しが生じて瞬時に斜面が崩れ落ちることをいいます。突発的に起こり、崩れ落ちるスピード

が速いため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、死者の割合が高い特徴があります。

土石流とは、溪流に貯まった土砂が、長雨や集中豪雨によって一気に下流へ押し流され、現象をいいます。時速二十キロメートルから四十キロメートルと自動車なみの速度で流れ、破壊力がとても大きいので、人家や田畑を押し流し、大きな被害をもたらします。

地すべりとは、比較的緩やかな斜面において、地中のすべりやすい層（粘土・泥岩などをふくむ地層）の地盤が地下水の影響などを受けて、ゆっくりと動きだす現象をいいます。一度に広い範囲が動くため、ひとたび発生すると、人家・道路・田畑などに大きな被害を及ぼしたり、川をせき止めて洪水等をひき起こす原因になることもあります。いずれも、過去にそのような災害があったところや、前兆現象が現れた場合は、要注意となります。

広島市の土砂災害は未明に発生し、避難勧告の遅れが被害拡大につながったという指摘があります。

平成二十六年の土砂災害の発生件数は、千八百八十四件で、しかもほとんどの都道府県で発生しています。

私の住んでいる地域は、土砂災害の発生するおそれのある地域ではありません。しかし集中豪雨などの大雨が続いたときに、床上浸水や床下浸水のおそれは絶対には言えません。雨が降りはじめたら、気象情報に注意したいと思います。

土砂災害危険箇所とされている地域に住んでいる人は、土砂災害警戒情報に注意しながら、はやめの避難が必要だと思います。なぜなら、深夜の避難は危険です。お年寄りや障害のある人など避難に時間のかかる人は、移動時間を考えてはやめに避難させることが大事だからです。

広島市で土砂災害の被害を受けた人たち

被災した当時、一番心配したのは、これから
の生活についてだそうです。災害でなくな
ってしまっただ切な人との思い出をつなぎ止
めるためにも、今まで住んでいた場所に住み
たいと思っっている人と、再び土石流に恐れれ
るかもしれないという恐怖があるため、いま
で住んでいた場所から引越して山から離れ
た場所で暮らそうとする人がいます。

土砂災害とは、一瞬にして大事な財産や大
切な命を奪い、昨日までの生活や人生を全く
変えてしまおうとしても恐ろしく怖いものです。
だからこそ、それから身を守るためには私た
ち一人ひとりが土砂災害に対して、日頃から
備えておくことが大切だと思います。